

原水爆禁止二〇一九年世界大会の挙行にあたり、原爆被災により犠牲になられた方々に対し、習志野市民を代表して謹んで哀悼の意を捧げます。

本市は、昭和五十七年に千葉県内で初めて「核兵器廃絶平和都市」を宣言して以来、戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを次世代に継承し、再びあの惨劇が地球上で繰り返されることのないよう、様々な場面で訴え続けて参りました。

平成二十一年のオバマ前アメリカ大統領によるプラハ演説以来、世界的にも核兵器廃絶への動きが高まっていると感じております。

しかしながら、核兵器廃絶を取り巻く世界情勢は厳しいものと言わざるを得ません。昨年十月と今年五月には、アメリカ合衆国において臨界前核実験が実施されていたことが報じられました。また、今年二月には、アメリカ合衆国からロシア連邦に対し、中距離核戦力全廃条約の破棄が通告されました。核兵器廃絶への道は依然険しいものでありますが、恒久平和を願う地道な活動が、核兵器廃絶につながると信じております。

本市では、毎年八月六日、九日に平和祈念式典を行い、市内に黙とうを呼びかけるほか、中高生を被爆地に派遣する等さまざまな平和事業を展開しております。「こんな思いは他の誰にもさせてはならない。」という被爆者の強い願いを、私たちは、被爆国日本の一員として受け継ぎ、地道ながらも、今後も更に邁進してまいります。重ねて、尊い犠牲になられた方々の御霊に心から御冥福を祈念申し上げると共に、御臨席の皆様のご今後のますますの御健勝をお祈り申し上げメッセージとさせていただきます。

令和元年八月

習志野市長

宮本 泰介

(公印省略)